

会報第20号
発行日 平成18年5月31日
発行・編集 V・G 榎輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/kirin

V.G 榎輪だより

わがまち紹介 万葉歌人の夢 玉川の里・三島の里

月日 平成18年5月18日
万葉の里は、万葉集をはじめ新古今集、千載集など多くの歌集に登場する三島江や玉川の里です。

この地は、芦が生い茂り、卯の花が咲き乱れる自然豊かな地でした。その面影を懐ひたいと「卯の花」の開花時期に合わせて、この里を訪れました。

散策ルート：玉川橋団地
玉川の里(卯の花の道散策) 松尾芭蕉碑 正徳寺 三島鴨神社 三島江浜跡 三箇牧公民館

玉川の里

高槻市玉川二丁目にある「玉川の里」は市内の南部そこに咲く「このはな」は平安時代から古歌の歌枕として知られ、江戸時代にも俳句や川柳の題材にもなりました。

古くから詩歌などに用いられた景勝地として、全国に六ヶ所の玉川(六玉川)があり、高槻の玉川は

山城国、近江国などの玉川とともに、「摂津国三島の玉川」として六玉川のひとつに数えられていました。それらは、地域ごとに

それぞれ詩歌に詠み込まれている風物が決まっています。山城国丹波は山吹、近江国野路は萩、武蔵国調布は晒布、陸前国野田は千鳥、紀伊国高野は旅人または水で、摂津国三島は「このはな」となっています。

初夏の玉川を詠んだ和歌・俳句には、「このはな」が多く登場します。

「このはな」暗唱 柳のおよびて

これは元禄7年(1699)4(の夏)松尾芭蕉が伊賀上野(現伊賀市)に帰郷し大坂や京に頻繁に出入りしていた頃に詠んだ句で現在、玉川の里にはこの句碑が建てられています。

卯の花

幹が中空であることからウツギの名がある。また卯月(陰暦の4月)に咲く

からともいつ。

ウノハナはウツギノハナの略称である。日本各地、および中国に分布。山野にはえ、生垣や庭木として栽植する。多く分枝し高さ1.5m位。皮はよくはげる。若枝、葉花序に星状毛がありざらつく。葉は対生し長き〜



6cm。花は5つ5月下旬頃に咲き、側枝の短い円錐花序に多くつく。花冠は白色で径約1cm。材は硬く木釘、楊枝などに利用する。「この花のにおい」垣根はウノハナが香るのではなく、白い花が美しく映える状態をいう。ウツギに香りはない。なおとしては香りよりも色の意味合いの方が古い。

『万葉集』では花のにおいは、もっぱら色の表現に使われ、香りにほぼほとんど

触れられていない。それが

『古今和歌集』になると、花の香が注目され、においとしても捉えられている。

においは『万葉集』では圧倒的に色の世界であった。『古今和歌集』で幕を開けたかおりは、『源氏物語』になって確立された。

正徳寺

浄土真宗本願寺派のお寺。門の東にある卯の花の大株は樹齢百年ともいわれる古木です。

三島江浜跡

三島江は、玉川の里と並んで歌枕の地として知られています。また、近世来は河港として、にぎわいをみせ、三島江浜とも呼ばれました。現在の姿から昔の面影をみることはできませんが、堤防下に残っている妙見灯籠が、当時の様子をしのばせてくれます。

三島鴨神社

四世紀に入って大和を中心とした国家体制が確立し、地方に成長した小国家を「県(あがた)」に編成し、その地方共同体の支配者を「県主」(あがたぬし)として統治させた。

三島県主は「続日本記

に三島県主が鴨宿彌(かもすくね)の姓(かばね)を賜ったとの記述がみえる。

鴨氏の祖先を祀る鴨神社があり、産土神として伝承されている。

鴨氏は淀川へ出た氏族と言われている。難波地方は、古代、難波の八十島といわれたように、河川の運ぶ土砂が堆積して陸地が形成し、多くの島々が点在していた。

古代の人々は鳥が作られていくのを神の威力と感じ、「御鳥」と呼んだ。「三島」は「御鳥」である。「御



は単純な敬称ではなく、地の神への信仰と、地域への愛着がこめられている。社伝によれば仁徳天皇の時代に百濟より大山祇神社を迎えて摂津御島に淀川鎮守の社を造ったのを創祀としている。S.O

6月度行事予定

"ROSE PLANのまち：番田"

月日：平成18年6月15日(木) 13:30集合
交通案内：バスJR高槻南駅 乗り場下田部団地行き
12:55発 終点下車 徒歩にて約10分
集合場所：安威川淀川右岸流域下水道組合管理センター

7月度行事予定

"福祉のまち：郡家"

月日：平成18年7月20日(木)
集合場所：今城塚公民館 1階ロビー 13:30 集合
交通案内：高槻市営バスJR富田駅南 乗り場
奈佐原行 13:00発 福祉センター前下車